

東日本大震災から10年綿花で東北を元気に

東日本大震災から間もなく10年。震災の復興と共に歩んできたのが、「東北コットンプロジェクト」の取り組みである。

プロジェクトは、津波の被災農地に、塩に強い綿花を栽培し、販売を通じて被災農家を支援するため、2011年7月に発足した。

綿花は、東松島市のほか、仙台、名取両市でも栽培。紡績会社、アパレルブランド、小売店など、全国の企業70社がプロジェクトに参画し、製品販売までの一連の工程を担っている。

東松島農場（赤坂農園内）では、約50aの畑に約5000株の苗が植えられ、半年を経て、白い綿がこぼれるまでになる。10回目となる今季は、約300kgの綿花の収穫があった。



毎年11月に行われる収穫祭には、全国各地より300人前後のボランティアが集まり、摘み取り後には、音楽演奏や踊りなどで祭りを楽しんでいる。

プロジェクト発起人で赤坂農園代表の赤坂芳則さん（70）は、「プロジェクトは、東北を元気にしたい思いによりできている。綿作り

で培った人脈という『糸』を大事に、活動を広げていきたい」と語る。